

< 認知症対応型共同生活介護用 >

評価結果報告書**地域密着型サービスの外部評価項目構成**

. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670300864
法人名	有限会社 うえの福祉会
事業所名	グループホーム うえの
訪問調査日	平成 19年 8月 11日
評価確定日	平成 19年 12月 12日
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけます。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 年 月 日

【評価実施概要】

事業所番号	4670300864
法人名	有限会社 うえの福祉会
事業所名	グループホーム うえの
所在地	〒893-0056 鹿児島県鹿屋市上野町5200-1 (電話)0994-40-3081
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	〒890-0056 鹿児島県鹿児島市下荒田二丁目48-13
訪問調査日	平成19年 8月 11日

【情報提供票より】(平成19年7月20日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 16 年 9月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	14 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 14.75

(2)建物概要

建物構造	木 造り		
	1 階建ての	1 階 ~	階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	11,100 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	150 円	昼食	250 円
	夕食	300 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名		
要介護3	6 名	要介護4	8 名		
要介護5	名		要支援2	2 名	
年齢	平均 85.15 歳	最低	60 歳	最高	96 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	井ノ上病院	小倉記念病院	中原歯科
---------	-------	--------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

国道の喧騒からも適度に距離があり、木造のぬくもり、清潔感があり、利用者にとって優しいホームになっている。運営者・管理者がユニット間に事務所兼仮住まいを設け、いつでも緊急時、職員の応援ができる体制ができている。「利用者・職員共に楽しく過ごす事」をモットーにチームワークを大切にしている。ホームの理念の唱和に利用者も加わり、理念達成に向けて、利用者自身が自分なりの目標を持ち、生きがいある生活を送っている。管理者を始め職員の方々が利用者の事を常に思やり、転倒しないよう見守りを重視し、理念達成に繋がるケアに徹している。また季節の行事・お出かけを多く取り入れ日常に変化を与えるケアを充実させている点もこのホームの特徴である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)	前回評価で各種感染症対策マニュアルの作成ができていないとの指摘を受けていたが、今回マニュアル作成されていた。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)	職員会議で自己評価することの意義について理解を深め、それぞれの職員の意見を出し合い、自己評価の充実に取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)	運営推進会議を定期的に行い、ホームの概要を説明し、又、意見をもらったりして、サービスの向上に役立っている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)	家族の意見、苦情はホームを育てる貴重なものとし真摯に受け止め、苦情処理ノートを設置し、不満・苦情等の早期解決に心がけている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)	年間行事計画に地域の夏祭りや運動会を取り入れて参加している。運営推進会議の設置後、町内会長・民生委員の出入りがあり、地域の方との交流もある。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者、職員共にいつも笑顔で楽しく時を過ごす事に力を注ぐ事業所独自の理念をつくりあげ、支援している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員、利用者も一緒に唱和し、理念の実践に向けて取り組んでいる。利用者の中には理念を自分の指針にして頑張る糧にしている方もいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	年間行事計画のもと、地域の夏祭り・運動会・グラウンドゴルフに参加している。ホームは開放的で地域の方との交流もある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員会議等で評価の一連の過程を通じて質の確保・向上につなげている。常に「なんとかしようよ!」と、はっぱをかける触発剤になっている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的に行い、意見をもらって職員会議等で報告し、サービスの向上に役立っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市議会議員や町内会長の意見をもらったり、ホーム主催の行事にも参加をもらっている。(生活保護の方もいるので市町村担当者との関わりもある。)		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時、現状報告をしている。毎月1回、『上野ハッスル便り』等発行しホームでの暮らしぶりを報告している。金銭出納帳の確認等も面会時に実施している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情処理ノートを設置し、意見・不満・苦情等を記載し、早期解決に心がけている。家族等意見を運営に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動があるときは利用者の動揺を最小限に抑え、ダメージを防ぐよう職員がより多くコミュニケーションをとり、スキンシップを図っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会等の情報を集めて研修を受けられる職員にはできるだけ参加させるようにしている。		年間研修計画をたてて、目標をもって職員レベルアップを図る体制作りが望まれる。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム経営者連絡協議会等で情報交換できているが、同業者同士の職員の交流会はない。		同業者と交流する機会をもちネットワークづくり勉強会など期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	老人会を通して交流の機会をつくっている。ホーム内では場の雰囲気に馴染めるよう声かけし、見守りを重視している。時には家族の応援をもらったりして、利用者の安心する居場所を設けるサービスに取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者との会話に心がけ、共感し、良い関係づくりに努めている。昔の歌や踊り、また料理の味付け等を教えてもらい、共に楽しんでいる。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族・本人の希望、思考を大切にしている。(気づき帳・個人記録参考)。ケース会議・担当者会議で現状把握し、共通の支援ができるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケース会議・担当者会議及び問題発生時に家族・医師・職員・本人で話し合い、本人のよりよい暮らしにつながる計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	問題が生じたら迅速に対応できるよう、ケア会議をし、本人・家族へ報告し、計画変更している。月、1回は検討し見直している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	開園3年未満のためショートステイの受け入れ資格がない。今後の課題である。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各利用者の係りつけ医により、適切な医療が受けられるよう、情報交換を密にしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族の要望があれば終末期に向けた方針を共有し、見ていく体制はある。現在は必要に応じ、特老への申請および医療機関への入院の支援を行っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	全職員が個人情報保護・プライバシー確保に常に配慮している。情報を会議等で使用する場合本人・家族の承諾を得ている。一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねないようにさりげない声かけや対応に配慮している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースで生活できるように声かけ、見守りを行っている。利用者自身が目標をたて、達成に向けて充実した日々を送っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳食事のメニューの説明があって、こころのこもった料理に感謝の気持ちをもって職員と一緒になごやかに食事を楽しんでいる。管理者は一人ひとりの嗜好調査を行い、バランスのとれた食事を提供している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週、3回入浴を楽しんでいる。又、必要に応じてシャワー浴をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	年間行事計画に取り入れて外気浴や外食・ドライブ等外出支援に力をいれ、気分転換の楽しい時間をつくっている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個人の買い物、園外散歩等支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室・玄関・門扉等 日中、鍵はしていない。利用者が好きな時に戸外に出られるようにして、見守り強化を図っている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の方の協力体制のもと定期的に避難訓練をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日報に記録し、食事・水分量を把握している。又、水分摂取量は1～1.5を目安に支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔に心がけ、共用の場は壁面の飾りや季節の花を生けたりして季節感を出している。木造の優しい温かさが居心地よく過ごせる共用空間になっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドやタンスはホーム側の用意したものであるが、思い出のもの(写真・本など)を持参し、個別に工夫している。		